

4つのチャレンジプラン・

中央高校総力を挙げて取り組みます！

名古屋市立中央高等学校(昼間定時制)

養護教諭 河井 寿恵

【背景・動機】

本校の特徴

- 学校のシステム : 単位制による昼間の定時制課程
無学年・無学級制
- 生徒像 : 生徒の約7割が不登校経験者
発達障害等さまざまな事情を抱える者
車いすを使用している者 等

東海地方でも南海トラフ等巨大地震の
発生が予想されている

防災対策への取り組みが重要かつ急務である！

【目的】

『防災』をより身近に感じながら、学校全体でさまざまな取り組みを展開する。



- ① 『防災への意識を少しでも高める』
- ② 『定時制高校における避難誘導體制の整備に着手する』

【2015年度 活動内容】

●生徒対象●

1 総合学習の時間

- (1) 物理教諭担当 (90分×3回+名古屋市港防災センター施設見学引率)
「災害から身を守り、長生きする力をつけよう」
- (2) 養護教諭担当 (65分×1回)
「大切ないのちを守ろう！
災害発生時の行動と応急手当 / 災害時の食事とアレルギー」
- (3) 国語科教諭担当 (90分×5回)
「災害をテーマにしたラジオドラマの作成」

2 防災講話

・東日本大震災津波等語り部 田畑 祐梨 氏

3 中央祭

- (1) 模擬店:「被災時を想定した非常食カレーの体験型ブース」
- (2) 展示:理科夏の課題「自宅の地震対策」まとめ
- (3) 文化系ブース(図書館・学習コーナー):「防災を考えよう」
- (4) 校長:「校内防災クイズの出題」(景品有り)
- (5) 劇:「防災の内容を取り入れた職員劇」

4 スポーツフェスティバル

・ミニ運動会:「防災関連2種目の導入」



【2015年度 活動内容】

●教職員対象●

- 1 教職員を対象としたプレ防災訓練
 - ・災害時アクションカードの使用方法確認
 - ・ぬいぐるみ(生徒役)の救出
- 2 地震を想定した避難訓練／避難経路の整備
 - ・2段階点呼による生徒の安否確認
 - ・階段の蓄光テープの貼布(東西1～5階ステップ)
- 3 実技講習会
 - ・「学校における緊急・災害時の対応講習会」
日本体育大学 助教 鈴木 健介 氏
- 4 講演会
 - ・「災害と心のケア—心の減災の視点から—」
人間環境大学 教授 坪井 裕子 氏



【生徒対象】

1 総合学習の時間

(1) 物理教諭担当(90分×3回+施設見学引率)

●「災害から身を守り、長生きする力をつけよう」

1) 5/20(水) 3・4限実施(講義)

- ① 防災クイズや意識チェックで自らの知識の度合いを知ろう
- ② 非常用持出袋のリストを作ろう



【生徒対象】

1 総合学習の時間

(1) 物理教諭担当 (90分×3回+施設見学引率)

●「災害から身を守り、長生きする力をつけよう」

2) 6/17(水) 3・4限実施 (講義)

- ①東北地方太平洋沖地震を教訓にしよう
- ②南海トラフ巨大地震を知ろう
- ③非常用持出袋に入れるものリストを検証しよう



(実践プログラム番号②)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(1) 物理教諭担当 (90分×3回+施設見学引率)

●「災害から身を守り、長生きする力をつけよう」

3) 7/1(水) 3・4限実施 (実習)

- ①災害用伝言板(web171)を試してみよう
- ②「役立つロープワーク(結び)入門」をやってみよう
- ③インターネットで自分の町のハザードマップを探し、自分の家の状況や避難場所を探してみよう



(実践プログラム番号③)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(1) 物理教諭担当 (90分×3回+施設見学引率)

●「災害から身を守り、長生きする力をつけよう」

4) 7/18(土) 名古屋市港防災センター施設見学(実習・体験)

- ①アルミ缶と牛乳パックでご飯を炊こう
- ②煙避難体験をしよう
- ③地震体験室で過去の巨大地震を体感しよう
- ④施設内を自由に見学しよう



(実践プログラム番号④)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(2) 養護教諭担当 (65分×1回)

●「大切ないのちを守ろう！ 災害発生時の行動と応急手当」

9/2(水) 3限実施(講義・実習)

- ①地震発生時の行動マニュアルを確認しよう
★千葉県立東金特別支援学校「あたりまえぼうさい」
- ②命に関わる症状を早く見つけよう
- ③災害発生後の心の動きを知ろう
- ④身近なものを救助や応急手当に活用しよう
★防災紙芝居カードゲーム「なまずの学校」をやってみよう



一生徒感想より—
命を守ることを第一に、
限りある資源を活用する
大切さを学びました。

(実践プログラム番号⑤)

【生徒対象】

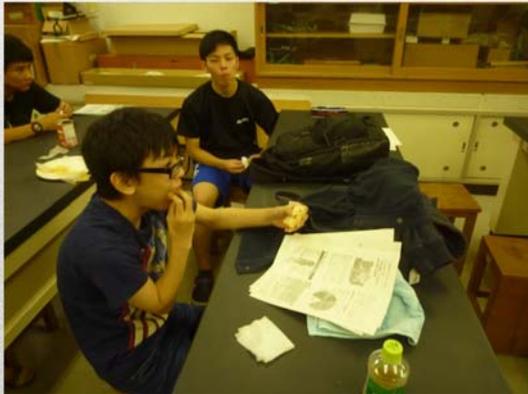
1 総合学習の時間

2) 養護教諭担当 (65分×1回)

●「大切ないのちを守ろう！ 災害時の食事とアレルギー」

9/2(水) 4限実施(講義・実習)

- ①災害食の3つのステップを知ろう
- ②食物アレルギーについて理解を深めよう
- ③災害食(パン缶)を食べてみよう



意外に美味しい！

(実践プログラム番号⑥)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(3) 国語科教諭担当 (90分×5回)

●「災害をテーマにしたラジオドラマの作成」

1) 9/2(水) 3・4限実施 (講義・演習)

- ①防災コンテスト受賞作品を視聴しよう
- ②阪神淡路大震災や東日本大震災の証言を調べよう
- ③生活の中で巨大地震が起きた場合を想定しよう



(実践プログラム番号⑦)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(3) 国語科教諭担当 (90分×5回)

●「災害をテーマにしたラジオドラマの作成」

2) 10/7(水)、3) 10/21(水) 3・4限実施 (講義・演習)

- ①防災に関するゲームを行おう
- ②ラジオドラマの脚本の書き方について学ぼう
- ③ラジオドラマを執筆しよう



(実践プログラム番号⑧)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(3) 国語科教諭担当 (90分×5回)

●「災害をテーマにしたラジオドラマの作成」

4) 11/25(水) 3・4限実施 (講義・演習)

- ①フランスでのテロについての文章を読もう
- ②テロや震災など理不尽な出来事の後にはどのような精神状態になるかを考え、話し合おう
- ③各自がラジオドラマのテーマを決めて執筆し、脚本を完成しよう



(実践プログラム番号⑨)

【生徒対象】

1 総合学習の時間

(3) 国語科教諭担当 (90分×5回)

●「災害をテーマにしたラジオドラマの作成」

4) 12/16(水) 3・4限実施 (講義・演習)

①ラジオドラマを録音しよう

②他の生徒のドラマを聞き、感想を語ろう



声に出して読むと
状況が実感できる！

(実践プログラム番号⑩)

【生徒対象】

2 防災講話

●東日本大震災津波等語り部 田畑 祐梨 氏

9/1(火) 10:15～11:15実施(講演)

田畑氏自身があの日、大切な人に伝えられなかった後悔と、ほかの人に同じ思いをしてほしくないということから、震災で亡くした中学時代の恩師から学んだ聞いて傷つく人のいない魔法の言葉である「ありがとう」と「だいすき」を伝えることの大切さについて語られた。



(実践プログラム番号⑪)

【生徒対象】

3 中央祭(10/29～30)

1) 模擬店(生徒運営・世界史/養護/英語科教諭担当)

●「被災時を想定した非常食カレーの試食」

生徒のアイデアにより、被災したという想定で真っ暗な室内においてアルファ米の非常食カレーを食べるという体験型ブースを開設した。

来場者は受付でランプとカレーを渡されて部屋に入り、わずかな明かりの下でカレーを試食した。



(実践プログラム番号⑫)

【生徒対象】

3 中央祭(10/29～30)

2) 展示(生徒作品展示・物理/地学科教諭担当)

●夏の課題「それぞれが取り組んだ災害への備え」

①「科学と人間生活(理科)」を受講している生徒は、授業内容を踏まえ、夏の課題をレポートしてまとめる

②中央祭に特設コーナーを設け、課題レポートを展示する

③さまざまな種類の非常食を実際に並べ、来場者が家庭での備えについて考えるきっかけをつくる



(実践プログラム番号⑬)

【生徒対象】

3 中央祭(10/29～30)

3)文化系ブース(学習コーナー・図書館)(生徒運営・世界史教諭担当)

●「防災を考えよう」

- ①パネルや図書などを展示したブースを学習コーナーに設置する
- ②自宅の地盤診断ができるパソコンを設置する
- ③来場者も参加できる防災紙芝居型カードゲームを実施する
- ④図書館では、生徒の防災意識を高める工夫を施した防災コーナーを設置する



(実践プログラム番号⑭)

【生徒対象】

3 中央祭(10/30) / 全校集会(1/6)

4)校長

●「校内防災クイズの出題」(非常食の景品あり)

- ①避難訓練後(10/22)に取り組みの趣旨を説明する/全校集会(1/6)に出題する
- ②クイズ用紙を所定の場所に設置する/クラス対抗とする
- ③優秀生徒・クラスの発表と景品の授与を行う



【正面玄関入口】



【クラス対抗校内防災クイズ】

(実践プログラム番号⑮)

【生徒対象】

3 中央祭(10/29～30)

5)職員劇(公民教諭担当)

●「防災の内容を取り入れた職員劇」

本校では毎年何らかのメッセージを生徒に伝える職員劇を上演しており、今年度は防災をより身近な話題とするために、その一部シーンに非常用持出袋の中身の紹介等をコミカルに取り入れる



(実践プログラム番号⑩)

【生徒対象】

4 スポーツフェスティバル 11/10(火)

●「防災関連種目の導入」(保健体育科教諭担当)

今年度ミニ運動会に防災関連2種目を導入した。

1)バケツリレー

5人1組でチームをつくり、バケツリレー形式でさまざまなボールを運ぶ競技を実施する

2)毛布担架リレー

4人1組でチームを構成し、2本の木材と毛布で作った即席担架で、負傷者に見立てた大きな人形を運ぶリレー競技を実施する



(実践プログラム番号⑪)

【教職員対象】

1 プレ防災訓練

●6/10(水) 13:30~14:20実施

- 1) 緊急地震速報受信(CDで流す)
- 2) 災害時アクションカード(指示カード)による任務遂行
- 3) 避難場所へ全員(生徒役ぬいぐるみ搬送を含む)避難完了

●今年度のポイント●

- ①管理職(校長・教頭)は出張で不在だった為、指示責任者は総務主任が行った。
- ②本務職員に加えて、非常勤講師も参加した。
- ③生徒役(ぬいぐるみ)の状況設定を変更した。

(実践プログラム番号⑱)

【教職員対象】

プレ防災訓練の様子



プレでの指示責任者
総務主任(30代)

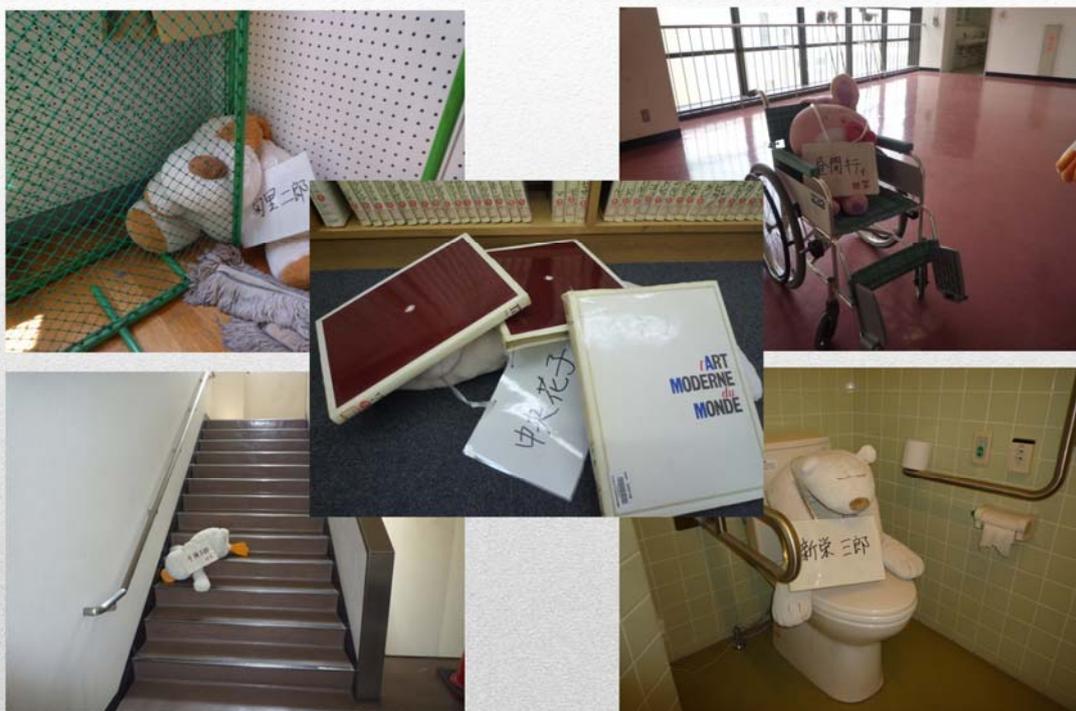
非常勤の先生方も
初参加!



(実践プログラム番号⑱)

【教職員対象】

ぬいぐるみ(生徒役5体)



(実践プログラム番号⑱)

【教職員対象】

プレ防災訓練 事後アンケート集計結果

● 今回のプレ防災訓練は実施してよかったですか？(回答数41)

大変よかった	よかった	どちらでもない	よくなかった	非常によくなかった
6 (14.6%)	19 (46.3%)	13 (31.7%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)

● 自由記述(一部抜粋)

【大変よかった・よかった】

- ・講師の先生も含めて多くの人が参加し、避難方法を確認できたためよかった。
- ・救助者の救助を含めた訓練は初めて行ったのですが、場面がイメージしやすくとてもよかったです。
- ・やはり実際に体を動かして覚えることは大事なことだと思います。

【よくなかった】

- ・プレとして本番の中身に対する簡易さがありました。
- ・参加者が状況判断する場面を設定するとよかった。

(実践プログラム番号⑱)

【教職員対象】

2 地震を想定した避難訓練／避難経路の整備

●10/22(木) 4限実施 / 12月～1月

- 1) 通電の設定: 緊急地震速報の受信・一斉放送による避難指示
- 2) 指示責任者(教頭)の指示により、授業担当以外の教職員は災害時アクションカード(指示カード)の担当内容に従って、任務遂行
- 3) 避難場所で2段階点呼を行い、全員避難完了し、安否を確認する

●今年度のポイント●

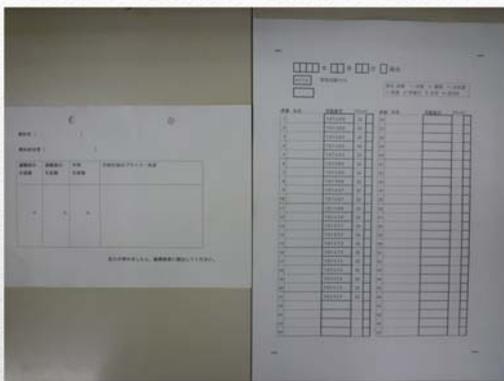
①避難場所で今年度作成した新しいシートを用い、1回目に授業担当者による点呼、2回目にプライドスタッフ(担任)による点呼の2段階点呼を行い、生徒の安否確認を行った。

②校内の東西1～5階の階段に蓄光テープを貼布し、避難経路の安全確保を図った。

(実践プログラム番号⑱)

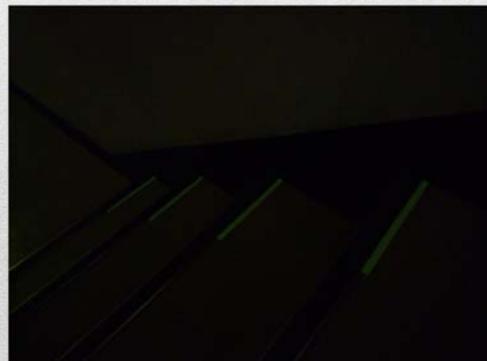
【教職員対象】

地震を想定した避難訓練の様子



2段階点呼により
不明者の安否が
確認されました！！

東西1～5階の
階段ステップ部分に
蓄光テープ貼りました！



(実践プログラム番号⑱)

【教職員対象】

3 救急救命講習会

●「緊急時の対応講習会—頭部外傷について—」

日本体育大学保健医療学部 助教 鈴木 健介 氏

12/4(金) 14:50~16:20実施(講義・実技演習)

- ①学校における緊急時の対応について
- ②2人1組で状況設定に応じた緊急度評価の実技トレーニング
- ③頭部外傷者の設定(ログロール、座位から仰臥位への移動等)



(実践プログラム番号⑳)

【教職員対象】

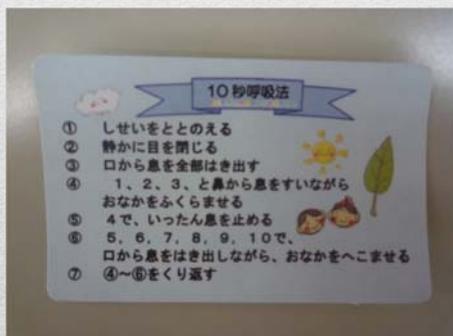
4 講演会

●「災害と心のケア—心の減災の視点から—」

人間環境大学人間環境学部 教授 坪井 裕子 氏

2/12(金) 14:50~16:20実施(講義・演習)

- ①災害時の心理的反応や心理的危機からの回復に必要なこと
- ②事後対応から未然防止へ
- ③ストレスの仕組みと対処方法について
- ④ストレスへの対処について10秒呼吸法の訓練



(実践プログラム番号㉑)

【まとめ】

● 成果として得たこと

- ① さまざまな事情を抱える生徒が多数在籍するが、総合的な学習の時間や各種行事の中で、楽しみながら『防災』に触れることで、生徒はより現実的に、真剣に防災について考えを深めたり、新しいアイデアを出したりしながら、一生懸命取り組む姿が多く見られた。
- ② 教職員を対象にしたプレ防災訓練後のアンケート結果では、今回の訓練を概ね肯定的に捉えていた。また、課題として出された意見も「より現実的に即した場面を想定しながら、実践的な力を身につけるための工夫が必要」といった前向きなもので、防災意識の高さや真摯な姿勢を感じることができた。
- ③ 地震を想定した避難訓練では2段階点呼を実施しているが、1段階目で未確認だった生徒が2段階目で改めて名前が挙がってくるなど、生徒個々によって時間割が異なる本校での2段階点呼の有効性が確認できた。

【まとめ】

● 全体の反省・感想・課題

2015年度防災教育チャレンジプランへの参加により、本校では「防災意識を少しでも高めよう」という観点でのアイデアや工夫を施しながら、さまざまな取り組みを行うこととなった。現在『防災』をより真剣に捉える運気が芽生えてきており、全校の総力を挙げて防災への取り組みを継続的に進めることには大きな意義があると感じている。

しかしながら取り組みは始まったばかりであり、全体としての「広がり」や「底上げ」という点では、より一層の工夫や継続が必要であり、今後の大きな課題である。

そして本校の個々の課題への対応策が、他の単位制高校はもとより、全日制高校の参考になっていくことを強く願っている。



【まとめ】

●今後の継続予定

学校体制としての今後の継続性も鑑み、次年度は新しい担当者の下でのさまざまな取り組みを計画しており、それによってより多くの教職員の意識改革と防災教育の指導力向上を礎とした本校の防災に関する対応策を確立していきたいと考えている。



1年間ありがとうございました!

